


令和6年度 発達支援研修 公開講座 報告書

テーマ	「子ども主体の多様な子育て・発達支援が豊かな地域を創る」	
日時	令和6年8月8日(木) 13:30～15:30	
場所	習志野市民ホール	
主催	ひまわり発達相談センター	
研修概要	講師	一般社団法人全国児童発達支援協議会 理事 光真坊 浩史氏 (公認心理師)
	目的	発達支援に携わる関係者や市民を対象に、外部から講師を招き発達支援に係わるテーマで御講演いただき、発達障がい等の理解・啓発を拡げていくことを目指す。今年度は、「こども主体の多様な子育て・発達支援が豊かな地域を創る」をテーマに発達支援について理解を広めることを目的とし、共に学ぶ機会とする。
	対象	一般市民をはじめ、子どもを取り巻く関係者(本市の保育士、幼稚園・小中学校教諭、保健師、市内外の民間事業所等)。
	参加人数	136名
研修内容 所感	<p>講演では、まず『児童の権利に関する条約』の内容に触れ、子ども主体とは権利を守ることであり、本条約の4つの柱についてお話がありました。続いて、障がいのある子どもを「困った子」「困らせる子」と捉えるのではなく、子ども自身が「困っている」という子どもの視点から捉え直し、困りごとを取り除く支援であるというお話がありました。また、発達障がいには、診断がつかない状態を「グレーゾーン」と呼ぶことがあるが、暗いネガティブ印象があるため、白黒ではなく彩りで個を見る「パステルゾーン」という言葉を使用の方が適切ではないかとのお話もありました。最後に、インクルージョンにおける実践事例の紹介があり、障がいのある子だけでなく、全ての子どもの思いや願いが大切にされ、また一人ひとりの「違い」(個性)を認め合い尊重される社会こそが、こどもまんなか社会ではないかとの話をいただきました。</p> <p>参加者からのアンケートでは、「障がいの捉え方や法律の捉え方を丁寧に講義していただきとてもわかりやすい説明でした。また、インクルージョンの実践例が良かったです。」「子どもの問題行動は、子どもが困っている、という視点で見なければならないと改めて考えさせられました。」「グレーゾーンという言葉が無意識に使っていたとハッとさせられました。パステルゾーンという言葉は、多様なポジティブなイメージもあるので、今後はぜひ使っていきたいと思いました。」等、参加者からの声も好評で非常に有意義な講演会となりました。</p> <p>＊講座に参加者の動機</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事や活動に活かすため(66名)・テーマに関心があった(59名) ・子育てに活かすため(31名)・地域との関わりに活かすため(17名)・その他(2名) 	